

介助用 **NAH-XF5**

自走用 **NA-XF7**

取扱説明書

この度は、製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

製品を安全、快適にご使用いただくための大切な内容が記載されております。ご使用前に必ずお読みください。

なお、保証書も掲載致しておりますので、大切に保管してください。

目次はP 30に掲載しております

各部の名称

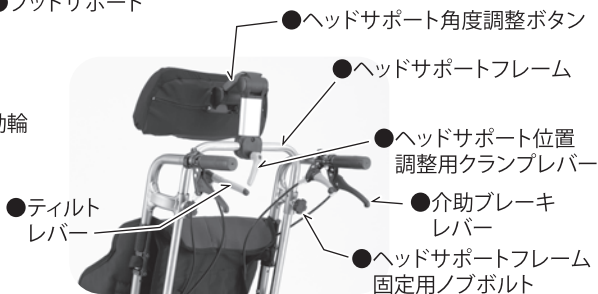


出荷時は運送時の安全の関係でフットサポートが外側に回転して収納されている場合があります。フットサポートの戻し方につきましては、P 8をご覧ください。

【NAH-XF5】



【NA-XF7】



出荷時は運送時の安全の関係でフット・レッグサポートをはずして収納されている場合があります。フット・レッグサポートの取付け方につきましては、P 10をご覧ください。



はじめにご確認ください



乗越え可能段差
1.2 cm以下



注意

NAH-XF 5、NA-XF 7の乗越え可能段差は1.2 cm以下です。1.2 cm超の段差を越えようとする、メカニカルロック部品が段差に当たり、製品が破損するおそれがあります。

1.2 cm超の段差を無理に超えようとしないようにしてください。

※フットサポート・シート間距離の設定や、乗車者及び介助者の身体状況によっては、1.2 cm以下の段差でも超えられない場合があります。無理な段差越えはしないよう、気をつけてご使用ください。

NAH-XF 5の仕様・サイズ

- 全長: 1 0 5 cm (9 8 cm) ●全幅: 6 0 cm (3 5 cm)
- 全高: 1 0 2 ~ 1 3 1 cm (6 6 ~ 7 0 cm)
- シート幅<アームサポートパイプ内々>: 4 0 cm ●ヒップスペース有効幅: 4 0 cm
- シート奥行: 3 8 cm ●バックサポート高: 調節式 4 3・4 5・4 7 cm
- 前座高: 調節式 4 2・4 4・4 6 cm (座面水平時)
- 後座高: 調節式 4 0・4 2・4 4 cm (座面水平時)
- アームサポート高: 調整式 2 4・2 6・2 8・3 0 cm
 <アームサポート前端部では 2 3・2 5・2 7・2 9 cm>
- キャスト: 6 インチ P U ●主輪: 1 4 インチ ノーパンク ●ティルト角度: - 4 ~ 3 0 °
- 重量: 1 8 . 9 kg

※以上の値は座クッション未装着時のものです。()は折りたたみ時寸法。

- 座クッション 厚さ: 4 cm 重量: 0 . 5 5 kg ●耐荷重: 1 0 0 kg (積載物を含む)

NA-XF 7の仕様・サイズ

- 全長: 1 0 5 cm (1 0 2 cm) ●全幅: 5 9 cm (3 4 cm)
- 全高: 1 0 2 ~ 1 3 1 cm (6 6 ~ 7 0 cm)
- シート幅<アームサポートパイプ内々>: 4 0 cm ●ヒップスペース有効幅: 4 0 cm
- シート奥行: 3 8 cm ●バックサポート高: 調節式 4 3・4 5・4 7 cm
- 前座高: 調節式 4 2・4 4・4 6 cm (座面水平時)
- 後座高: 調節式 4 0・4 2・4 4 cm (座面水平時)
- アームサポート高: 調整式 2 4・2 6・2 8・3 0 cm
 <アームサポート前端部では 2 3・2 5・2 7・2 9 cm>
- キャスト: 6 インチ P U ●主輪: 2 2 インチ (2 5・5 0 1) ノーパンク
- ティルト角度: - 4 ~ 1 8 ° ●重量: 1 9 . 6 kg

※以上の値は座クッション未装着時のものです。()は折りたたみ時寸法。

- 座クッション 厚さ: 4 cm 重量: 0 . 5 5 kg ●耐荷重: 1 0 0 kg (積載物を含む)

ヘッドサポートフレームのはずしかた・取付けかた・高さ調整のしかた



はずしかた

ヘッドサポートフレームを固定している、左右のヘッドサポート固定用ノブボルトを緩めると、ヘッドサポートフレームを上引き抜いてはずすことができます。

取付けかた

ヘッドサポートフレームを左右のヘッドサポート固定用ノブボルトがついているパイプに上から差し込み、左右のヘッドサポート固定用ノブボルトをしっかりと締め、固定してください。
(しっかりと固定され、ヘッドサポートフレームを引き上げても抜けないことを確認してください。)

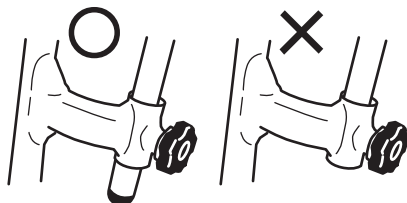


高さ調整のしかた

ヘッドサポートフレームを固定している、左右のヘッドサポート固定用ノブボルトを緩めると、ヘッドサポートフレームの高さを上下に調整することができます。調整後は、左右のヘッドサポート固定用ノブボルトをしっかりと締め、固定してください。
(しっかりと固定され、ヘッドサポートフレームを引き上げても抜けないことを確認してください。)



ヘッドサポートフレームが、左右のヘッドサポート固定用ノブボルトがついているパイプの下から出ている状態で製品を使用してください。
ヘッドサポートフレームが右図のパイプの下から出していない状態で使用すると、製品の破損や事故につながるおそれがあります。



乗車の際は、必ずヘッドサポートフレームとヘッドサポートを正しく装着して使用してください。
ヘッドサポートを使用しない状態での乗車はしないでください。

車いすのひろげかた

- 1** 手押しハンドルを持って軽く左右にひろげてください。



- 2** 片方の手押しハンドルを持ち上げるように反対側の座面下のパイプ部を下の方へ押し下げます。

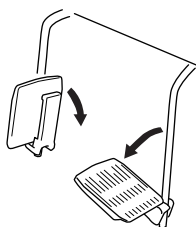


注意
警告



押し下げる際、座面パイプの下側や横側に手や指を入れないでください。危険です。

3



フットサポートプレートを下方へ回転させるようにセットします。
使用者が車いすに座ってから行うのが一般的です。

4



ヘッドサポートフレームを取付けます。
(手順は P 3 を参照してください。)

※しっかりと固定され、ヘッドサポートフレームを引き上げても抜けないことを確認してください。

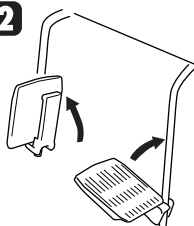
車いすの折りたたみかた

1



ヘッドサポートフレームをはずします。
(手順は P 3 を参照してください。)

2



フットサポートプレートを上方向へ回転させて収納します。

3



座面シートの、前後中央部を持ち上げます。

4



専用座クッションを装着したままでも折りたたみができます。



車いすを折りたたんで長時間保管する場合は、座クッションを車いすからはずしてください。座クッションをつけたまま、長い間車いすをたたんでおくと、座クッションに車いすフレームパイプの跡がつく場合があります。

手押しハンドルを持って、左右から押し縮めるように折たたんでください。

バックサポートの折りたたみかた・固定のしかた

バックサポートの折りたたみ動作、固定動作は、ヘッドサポートフレームを本体からはずした状態で行います。

(ヘッドサポートフレームのはずしかたにつきましてはP 3をご覧ください。)

折りたたみかた



手押しハンドルを握り、一方の手でバックサポート折りたたみレバーを下に押しながら、手押しハンドルを手前に引くように少し折り曲げます。反対側も同様の手順で少し折り曲げてください。続いて、左右同時に折りたたみます。



警告

車いすに乗る際は、完全にバックサポートが固定されている事を確認してから、座ってください。

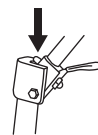
固定のしかた



手押しハンドルを握り、上方へ引き起こすように持ち上げてください。左右のスライドピンが「カチッ」とロックされたことを必ず確認してください。



注意
警告



- 矢印の部分に手や指を置かないでください。
- 矢印の部分にバックサポートシートをはさみこまないように注意してください。

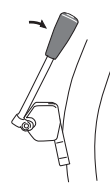
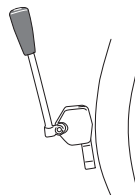
- 車いすに乗る際は、完全にバックサポートが固定されている事を確認してから、座ってください。

駐車ブレーキのかけかた

レバー先端のノブを手で後方に引くと駐車ブレーキがかかります。レバーを前に戻した状態が解除です。

解除時

駐車



注意
警告

- 駐車ブレーキは左右両輪ともしっかりとかけてください。片側だけのブレーキをかけた状態で駐車をしないでください。
- しっかりブレーキをかけていても、乗降時などに、横から強い力が加わると車いすは簡単に動いてしまいますので、十分注意してください。
- 坂の途中では駐車をしないでください。やむを得ず駐車する場合は2輪以上に車止めをしてください。
- ブレーキレバーに体重をあずけたり、足でレバー操作するなど、レバーに強い力がかかる行為はしないでください。
- レバー操作は、ブレーキシューやタイヤに手指があたらないように注意しながら、しずかに行ってください。

駆動輪の操作のしかた（N A - X F 7のみ）



- 乗車者がハンドリムを握り、ハンドリムを前に押したり、後ろへ引いたりすることで、前進又は後退します。
- 走行中にブレーキをかけるには、ハンドリムを握って駆動輪を止めます。



**注意
警告**

タイヤを握って漕ぐと、ブレーキやフレーム、アームサポート等の間で指を挟むことがありますので注意してください。

ティルトをして、前方や足もとが確認できない状態での自走操作は大変危険です。このような状況では、乗車者自身による自走操作はしないでください。

ティルト・介助ブレーキの操作方法



■ティルトのしかた

左右のティルトレバーを手押しハンドルのグリップと一緒に握り、後方（もしくは前方）へ倒し、止めたい位置でレバーを離せば止まります。（ティルト操作は、介助者が胸や肩、腕で車いすをしっかりと支えながらゆっくりと行ってください。）



後傾ティルト
(N A H - X F 5 : 最大 30°)
(N A - X F 7 : 最大 18°)



前傾ティルト
(N A H - X F 5 : 最大 4°)
(N A - X F 7 : 最大 4°)
※前傾ティルトはテーブル・机での作業時などに有効で、一時的に使用します。



**注意
警告**

ティルト動作は必ず駐車ブレーキをかけて行ってください。

前傾ティルトで使用の際は、乗車者が車いすから倒れて落下したり、前にずれ落ちたりしないように十分注意してください。

ティルトを後傾から起こす際には、角度を一度に大きく戻さず、少しずつ起こし、搭乗者の様子を確認しながら起こしてください。急に大きく角度を起こすと、搭乗者の血圧が低下し、体調に悪影響を及ぼす可能性があります。

■介助ブレーキ（制動ブレーキ）のかけかた

左右の介助ブレーキレバーを同時に握ると介助ブレーキがかかります。

クランプレバーによるヘッドサポート左右位置と角度の調整のしかた

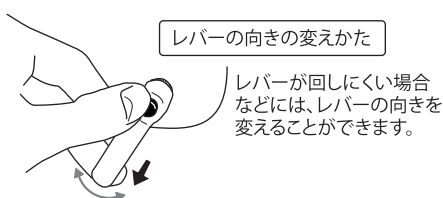


ヘッドサポートのクランプレバーを手で緩めると、ヘッドサポートの左右位置と角度を調整することができます。調整後はレバーをしっかりと締めて、ヘッドサポートを確実に固定してください。

クランプレバー

締める
(時計回り)

緩める
(反時計回り)

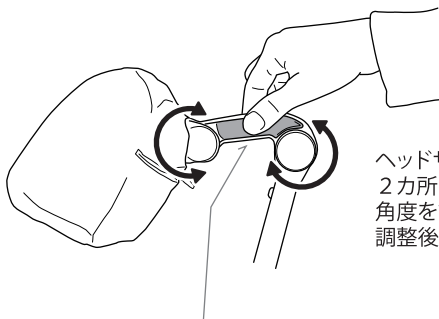


レバーの向きの変えかた

レバーが回しにくい場合などには、レバーの向きを変えることができます。

中心の黒い部分を指で押しながら、レバーを手前に引く

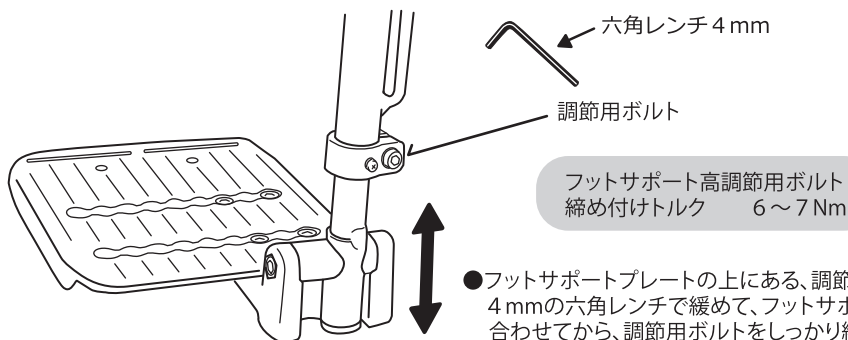
角度調整ボタンによるヘッドサポート角度の調整のしかた



角度調整ボタン

ヘッドサポートの角度調整ボタンを指で押し込むと、2カ所の回転軸のロックが解除され、ヘッドサポートの角度を調整することができます。調整後はレバーから指をはなすと、角度がロックされます。

フットサポートの高さの調節のしかた



- フットサポートプレートの上にある、調節用ボルトを 4 mm の六角レンチで緩めて、フットサポートの高さを合わせてから、調節用ボルトをしっかり締め付けます。(極端に強く締めすぎると、締め付けクランプ部品が破損する場合がありますのでご注意ください。)



注意

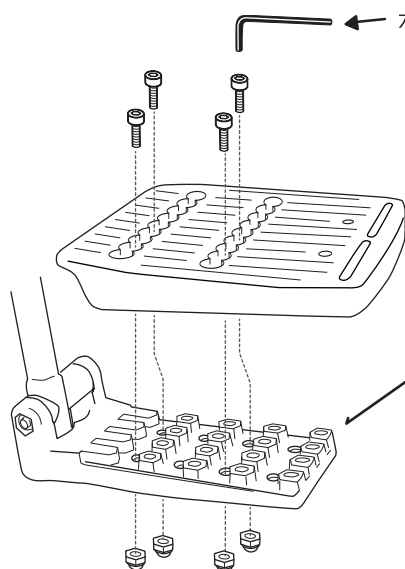
- 調節後はしっかりと調節用ボルトを締めて固定してからご使用ください。(極端に強く締めすぎると、締め付けクランプが破損する場合がありますのでご注意ください。)
- フットサポートを下げすぎると、段差やスロープ等でつまずくことがあります。フットサポートの最下端部を、地面から 5 cm 以上あげてください。
- 調節用ボルトが完全に緩んでいない状態で無理にフットサポートを動かさないでください。ボルトにキズがつき、調節がしにくくなる場合があります。
- フットサポートに腰掛けたり、登ったりしないでください。



出荷時

出荷時はフットサポートを、外側後方に回転して収納している場合があります。上記説明の通りに調節用ボルトを緩めて、フットサポートプレートを前方に回転させ、高さを調節してから、調節用ボルトをしっかり閉めて固定してください。

フットサポートの前後位置の調節のしかた



六角レンチ5mm

フットサポートプレートをフットサポートベースに固定しているボルト・ナットを5mmの六角レンチで緩めてはらずと、フットサポートプレートの前後位置を3段階調節できます。

フットサポートベース

車いす前側

ボルト・ナットでの固定箇所



禁止

右図の3段階以外の位置でフットサポートプレートを取付けて使用することは、しないでください。

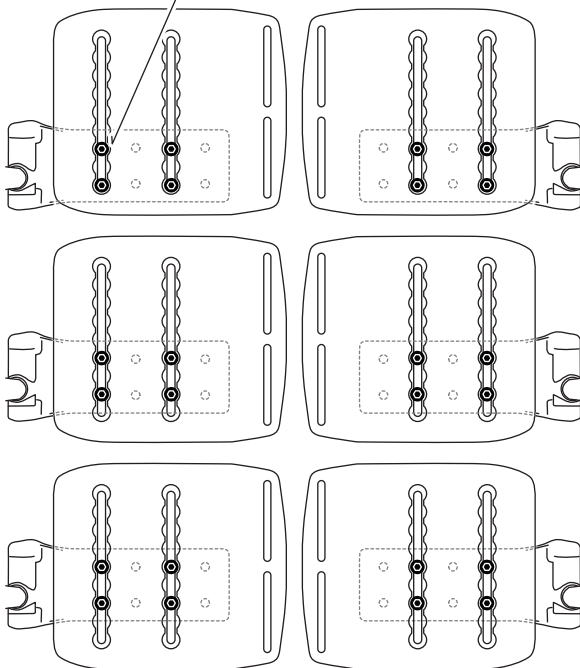


注意

フットサポートプレートの位置変更後は、フットサポートプレート1枚につき4箇所固定ボルト・ナットをしっかりと締めなおして固定してください。



挙上式フット・レッグサポート(オプション)では、フットサポートの前後位置を調節することはできません。



車いす外側

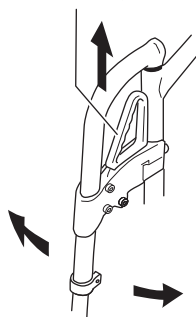
車いす外側



各部の調節につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談・ご依頼ください。

フット・レッグサポートの開閉のしかた・着脱のしかた

スイングイン・アウト用レバー

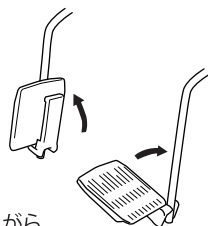


開閉のしかた・はずしかた

※乗車者の足をフットサポートから外した状態で操作を行ってください。

- スイングイン・アウト用レバーを握りながら、フット・レッグサポートを内側・外側へ回転させことで、フット・レッグサポートの開閉（スイングイン&スイングアウト）ができます。

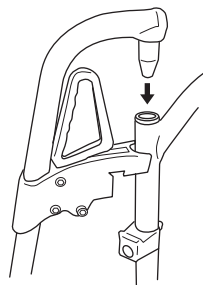
※フットサポートプレートがあたって、内側に回転できない場合は、フットサポートプレートを跳ね上げてから操作をしてください。



- スイングイン・アウト用レバーを握りながら、フット・レッグサポートを上方に引き上げると、フット・レッグサポートを本体からはずすことができます。

取付けかた

- ①フット・レッグサポートを外側に開いた状態の角度で、フット・レッグサポートのインナーパイプをフット・レッグサポート受けパイプの穴に、上からまっすぐ差し込みます。



- ②スイングイン・アウト用レバーを握りながら、フット・レッグサポートがまっすぐになる位置まで、内側に回転させてください。
- ③フット・レッグサポートがまっすぐな正しい位置になったら、レバーから手を離してください。レバーが戻り、フット・レッグサポートがフレームに固定されていることを確認してください。（フット・レッグサポートが左右に動いたり、上方に抜けたりしないことを確認してください。）

フット・レッグサポートの開閉・着脱操作は、フット・レッグサポートレバーを握りながら行います。

アームサポートの跳ね上げのしかた・戻しかた

跳ね上げのしかた



アームサポート
跳ね上げプラグ



アームサポート先端のアームサポート跳ね上げプラグのレバーを後方に倒すと、アームサポートの固定（ロック）を解除することができます。ロックを解除して、アームサポートを上に戻させるように上げてください。



戻しかた



戻すときは、アームサポート跳ね上げプラグを握らずに、そのまま「カチッ」というまでアームサポートを押し下げてください。



**注意
警告**

- アームサポートの跳ね上げは必ず駐車ブレーキをかけて行ってください。
- アームサポートを跳ね上げた状態で車いすを動かさないでください。
- バックサポートを折りたたんだ状態でアームサポートを跳ね上げないでください。
- 跳ね上げて移乗する際は必ず、アームサポート跳ね上げプラグがバックサポートパイプの前に出ない位置まで跳ね上げてください。
- 戻すときには、アームサポートとフレームや座面の間やジョイント部に、身体や衣服が挟まらないように注意してください。



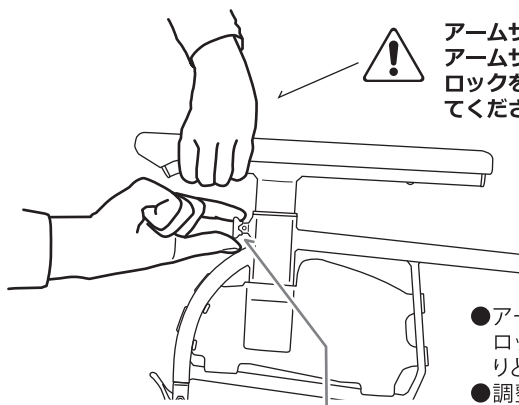
警告



アームサポートが跳ね上げられている時は、左写真の矢印部分に手や指を置かないでください。アームサポートを戻すときや、衝撃等でアームサポートが戻ってしまったときなどに、フレームで手指をはさんでケガをするおそれがあります。



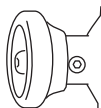
アームサポート高の調整のしかた



調整用ボタン

- アームサポートを持ち、調整用ボタンを引いて、ロックを解除し、アームサポートの高さをゆっくりと上下させ、高さを調整します。
- 調整用ボタンがロックされれば調整は完了です。

調整用ボタン



ボタンが外側に引っ張り出された状態で保持された状態

ロック解除状態



ボタンが本体内側に引きこまれている状態

ロック状態

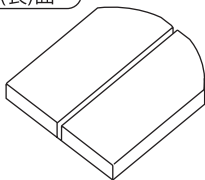


注意 警告

- ・手指等を挟まないように注意してください。
- ・調整はアームサポートが落ちないようにアームサポートを持ちながらおこなってください。アームサポートから手を離してロックを解除すると、落ちたアームサポートとフレームで手指や身体をはさんでケガをするおそれがあります。
- ・調整後はアームサポートが調整用ボタンでしっかりと固定されていることを確認してください。

折りたたみ対応専用座クッションの使いかた

上(表)面



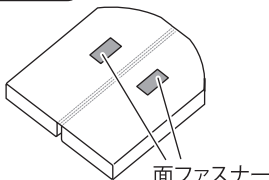
クッション下(裏)面の面ファスナーと座シートの面ファスナーをはり合わせてしっかりと固定します。



警告

クッションがしっかりと座シートに固定されていない状態や、クッションのファスナーがしっかりと締められていない状態でクッションを使用しないでください。

下(裏)面



座シートの前端の位置に座クッションの前端の位置を合わせてください。



折りたたみ対応専用座クッションは、車いすに固定したままでも、車いすを折りたたむことができます。



注意

車いすを折りたたんで長時間保管する場合は、座クッションを車いすからはずしてください。

座クッションをつけたまま、長い間車いすをたたんでおくと、座クッションに車いすフレームパイプの跡がつく場合があります。



サイドガードについて(必ずご確認ください)



サイドガード



警告

サイドガードはメンテナンスのためにはずせる構造になっていますが、販売店以外の方はサイドガードをはずさないでください。サイドガードがはずれた状態での使用は事故や製品の破損につながるおそれがあります。

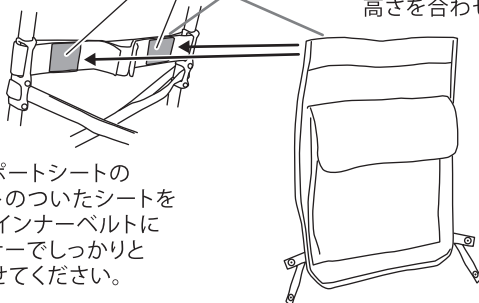
サイドガードが車いすにしっかりと装着されていない場合や、サイドガードに亀裂や破損がある場合は使用を中止し、販売店までご相談ください。

バックサポートシートの取付けた

1

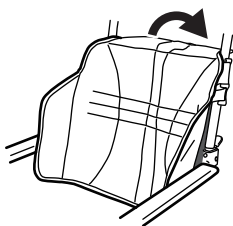
面ファスナー

一番上のインナーベルトの上端と
背ポケットのついたシートの上端の
高さを合わせて貼り合わせます。



バックサポートシートの
背ポケットのついたシートを
1 番上のインナーベルトに
面ファスナーでしっかりと
貼り合わせてください。

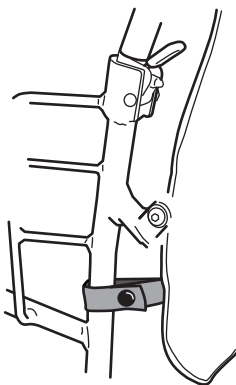
2



バックサポート前側用シートの上部を、
一番上のインナーベルトの上端で折り曲げて、
面ファスナーでインナーシートの裏側に
しっかりと貼り合わせてとめます。

3

背ポケットのついたシート of 左右の
ホックボタンのついたベルトを、
バックパイプにまわし、ホックボタンで
とめて、左右とも固定してください。



注意

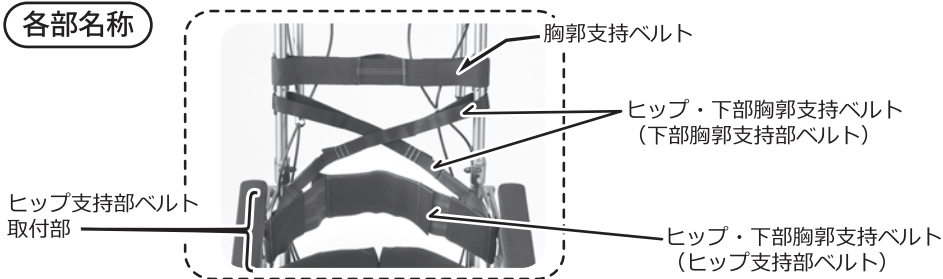
- バックサポートシートの取付けは
駐車ブレーキをかけて行ってくだ
さい。
- 車輪のスプークや各部で手指等を
挟まないように注意してください。

取付け時



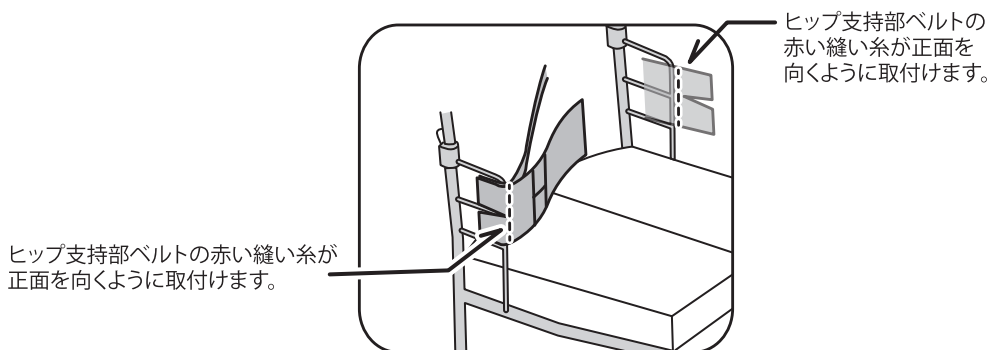
バックサポートインナーベルトの基本設定

各部名称

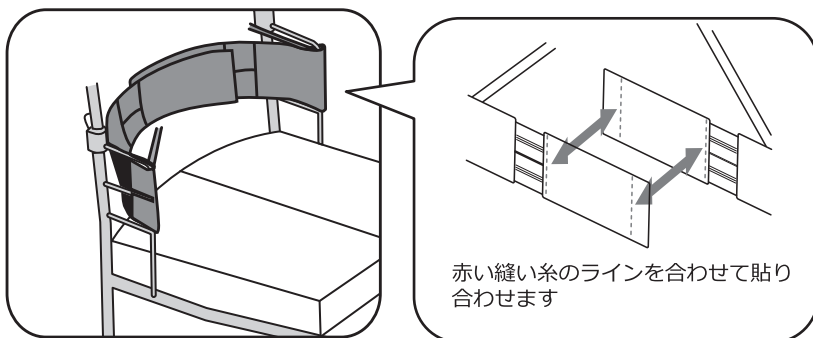


ヒップ支持部の設定

- 1** ヒップ支持部ベルトの上面を、ヒップ支持部ベルト取付部の一番上の部分にあわせて、しっかりと貼り合わせます。



- 2** 左右のヒップ支持部ベルトの赤い縫い糸のラインを合わせて、しっかりと貼り合わせます。



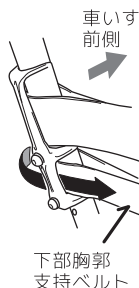
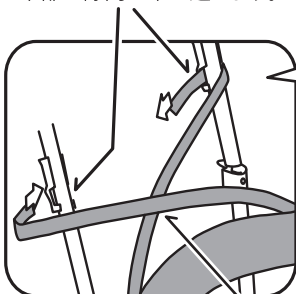
バックサポートインナーベルトの基本設定の説明は、次ページ以降 (P 16・17) に続きます。



バックサポートインナーベルトの基本設定(つづき)

下部胸郭支持部の設定

- 1** 下部胸郭支持部ベルトをバックサポートパイプの樹脂パーツの下部の隙間の中に通します。



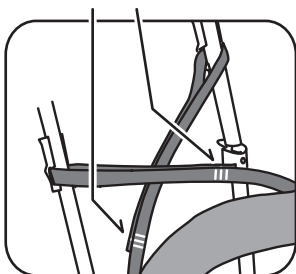
**注意
警告**

下部胸郭支持ベルトは左図のように、バックサポートの前側からバックサポートパイプに巻きつけて、樹脂パーツの下部の隙間を通して固定してください。バックサポートパイプに巻きつけずに固定すると、使用中に樹脂パーツがはずれる、もしくは破損するおそれがあります。

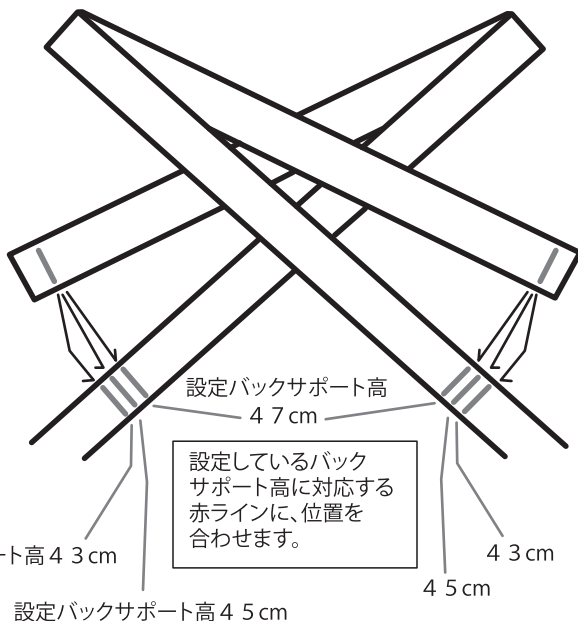
ベルトがねじれないように巻いてください。

ベルトの重なりはどちらが上でも可です。

- 2** ベルトの赤い縫い糸の位置どうしを設定しているバックサポート高に応じて合わせ、しっかりと貼り合わせます。

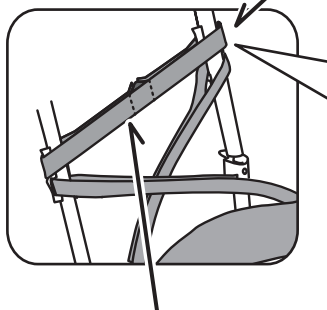


バックサポート高の設定につきましては、P18をご覧ください。



胸郭支持部の設定

胸郭支持ベルトをバックサポートパイプの樹脂パーツの上部の隙間の中に通します。

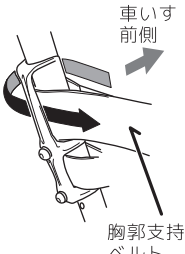


胸郭支持ベルトの赤い縫い糸の位置どうしを合わせ、しっかりと貼り合わせます。



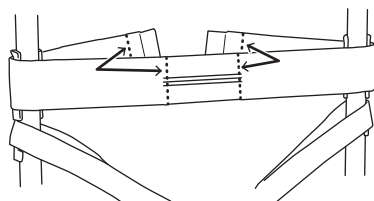
**注意
警告**

胸郭支持ベルトは左図のように、バックサポートの前側からバックサポートパイプに巻きつけて、樹脂パーツの上部の隙間を通して固定してください。バックサポートパイプに巻きつけずに固定すると、使用中に樹脂パーツがはずれる、もしくは破損するおそれがあります。



車いす
前側

胸郭支持
ベルト



**注意
警告**

- 各インナーベルトの設定後は、各ベルトが面ファスナーでしっかりと固定され、フレームからはずれないことを確認してください。
- バックサポートインナーベルトはすべてを正しく取付けてください。一部のベルトを省いたり、説明書記載と異なるつけ方をして使用したりしないでください。
- ベルトが破れていたり、面ファスナーがしっかりと効かなくなっている場合などは使用を中止し、販売店に部品交換を依頼してください。



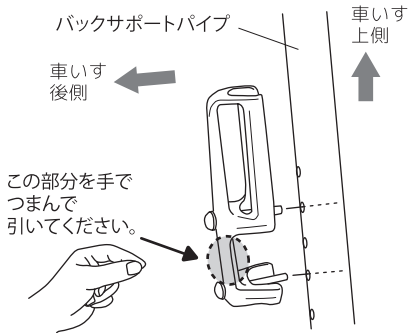
インナーベルトの貼り合わせ位置を、基本設定から変更して使用する場合は調整につきましては、専門知識と技術を持った、医師、療法士、福祉用具専門相談員、販売店にご相談ください。



警告

バックサポートインナーベルトを使用者が乗車した状態で調整する場合、同時に2カ所以上の面ファスナーをはずさないでください。調整中に2カ所以上の面ファスナーがはずれた状態では、乗車者が落下しケガをするおそれがあります。また、使用者が乗車した状態での調整作業は、乗車者が車いすから落下しないよう、介助者が乗車者の身体を支えながら、慎重に行ってください。

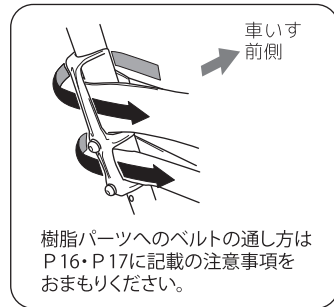
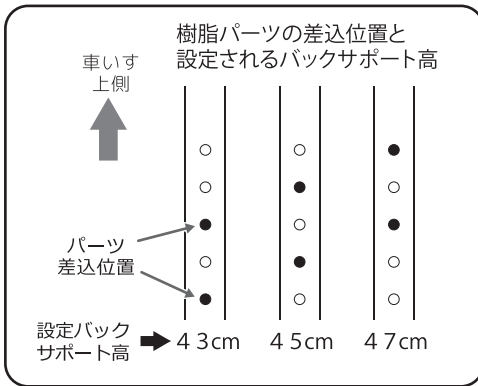
バックサポート高の調整のしかた



バックサポートのシートとインナーベルトをはずし、インナートップベルトを通して樹脂パーツをバックサポートパイプから引き抜きます。

穴位置を変更して樹脂パーツを差し込むことで、バックサポートの高さを変えることができます。

しっかりとパーツが差し込まれたことを確認し、バックサポートのインナーベルトとアウターを正しく装着してください。



注意

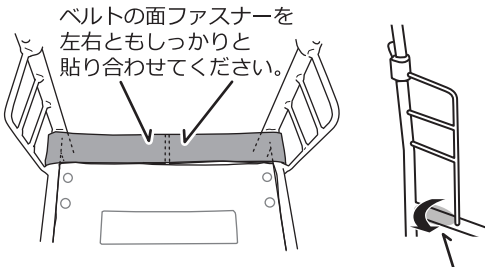
バックサポートは左右が同じ高さになるように設定してください。



バックサポート高の調整につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談・ご依頼ください。

座奥ベルトの装着について

座奥のベルトの面ファスナーを、できるだけたるみのないように、しっかりと貼り合わせて装着してください



座奥ベルトはこのパイプを上から巻き込んで取付けてください。



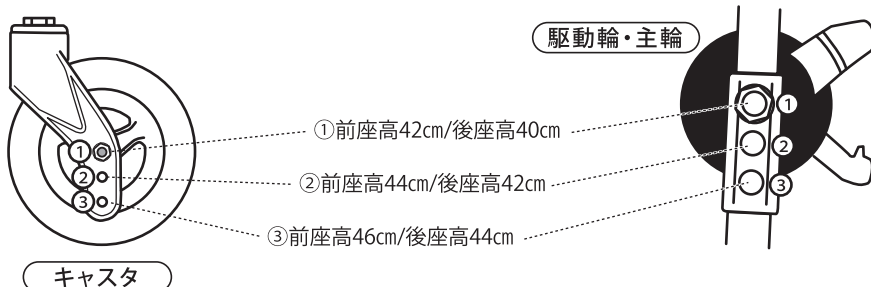
警告

座奥ベルトが正しく装着されていない状態で乗車した場合、落下や各部の誤動作等で重大な事故につながるおそれがあります。

ベルトを車いすをひろげられないほどきつく張りすぎると、破損や事故につながるおそれがあります。

座面高の調節について

キャスタ車輪を止めている車軸ボルトの穴位置と駆動輪（主輪）を固定している車軸ボルトを取付けている穴の位置を変更することで座面の高さを変更することができます。



キャスタ車輪の車軸と駆動輪の車軸は①・②・③のうちの同じ番号の位置に設定してください。

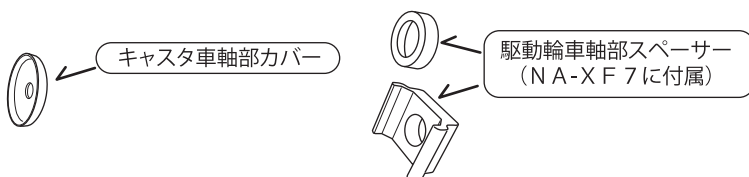
※座面高を変更する場合は、駐車ブレーキの調節も必要となります。



キャスタと駆動輪の車軸を①・②・③の番号が異なる組合わせで設定しないでください。正常な走行ができなくなり危険です。

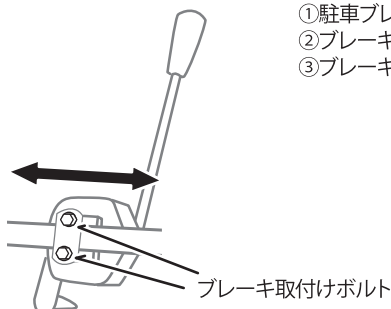


- 車軸ボルト・ナット類はしっかり締めてください。取付けが不完全な場合、車輪が脱落し、事故につながるおそれがあります。
- 車軸ボルトのワッシャー類・キャスタ車軸部カバー・駆動輪車軸部スペーサー（駆動輪車軸部スペーサーはN A-X F 7のみで使用）は元通りにセットしてください。



座面高の変更につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談・ご依頼ください。

駐車ブレーキの調節方法（座面高を変更した場合は必ず調節してください）



- ①駐車ブレーキのブレーキ取付けボルトを緩めます。
- ②ブレーキがしっかりかかる位置までブレーキ本体をずらします。
- ③ブレーキ取付けボルトをしっかり締めて固定し、完了です。

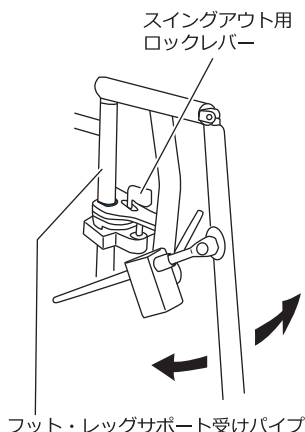


使用前には、駐車ブレーキがしっかり効くかどうか、駐車ブレーキがブレーキ取付ボルトとブレーキ取付けプレートでしっかり固定されているかどうか、必ずご確認ください。



ブレーキの調節につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談・ご依頼ください。

挙上式フット・レッグサポート(オプション)の開きかた・着脱のしかた



開きかた・はずしかた

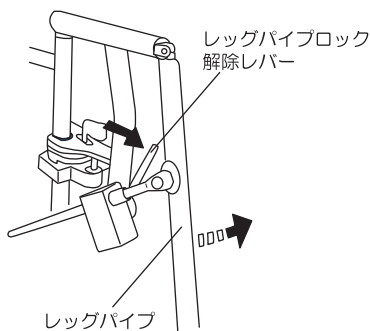
※乗車者の足をフットサポートから外した状態で操作を行ってください。

- ①スイングアウト用ロックレバーを外側へ押しながら、フット・レッグサポートを外側に開きます。
- ②フット・レッグサポートを外側へ45°程度回転させると、フット・レッグサポートを上方に引き抜いて外すことができます。

取り付けかた

- ①フット・レッグサポートを外側に45°程度開いた状態の角度で、フット・レッグサポートのインナーパイプをフット・レッグサポート受けパイプの穴に、上からまっすぐ差し込みます。
- ②フット・レッグサポートを「カチッ」と音がするまで、内側に向けて回転させてください。

挙上式フット・レッグサポート(オプション)の挙上のしかた・下げかた



挙上のしかた(上げかた)

レッグパイプを持ってそのまま持ち上げ、角度を調整します。

下げかた

レッグパイプを片方の手でしっかり持ちながら、もう片方の手で、レッグパイプロック解除レバーを前に倒します。そのまま、レッグパイプの角度を任意に調整し、レバーから手を離して角度を固定します。

挙上式フット・レッグサポート(オプション)の各部の調節のしかた

フットサポートプレート高さの調節のしかた

フットサポートプレートの高さの調整方法は、標準仕様のフット・レッグサポートと同じです。
調整方法につきましてはP 8をご覧ください。

レッグパッド位置の調節のしかた

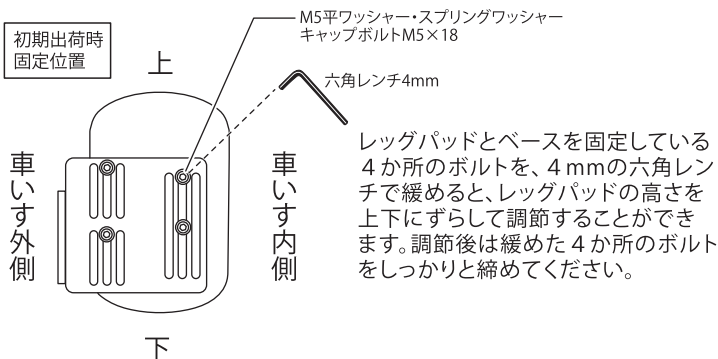


レッグパッド位置の調節につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご依頼ください。

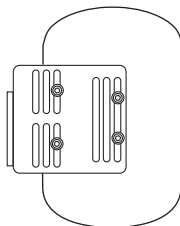


注意

レッグパッド位置の調節は、フット・レッグサポートを車いすから外した状態で行ってください。
また、作業中に各部で手指を挟まないようにご注意ください。

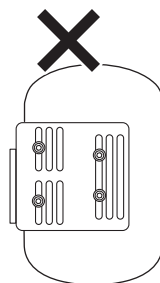


レッグパッドとベースを固定している4か所のボルトを完全にはずしてベースの溝の位置をかえて組付けると、レッグパッドを車いすの内側によせることができます。ワッシャー類は元通りにセットして、ボルトはしっかりと締めてください。



注意

レッグパッドを車いすの外側によせると、レッグパッドが、レッグパイプの部品にあたり、正常に使用できなくなります。レッグパッドを外側によせる調節はしないでください。



挙上式フット・レッグサポート(オプション)の各部の調節のしかた

レッグパッドベース高さの調節のしかた

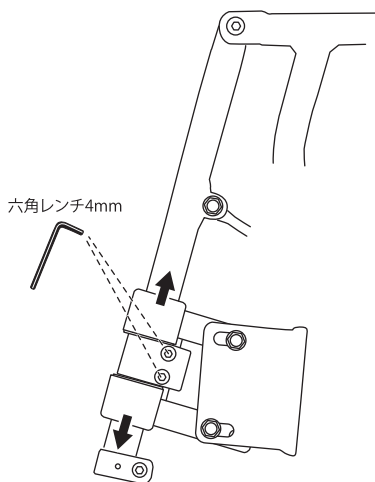


レッグパッドベース高さの調節につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご依頼ください。



注意

レッグパッドベース高さの調節は、フット・レッグサポートを車いすから外した状態で行ってください。
また、作業中に各部で手指を挟まないようにご注意ください。



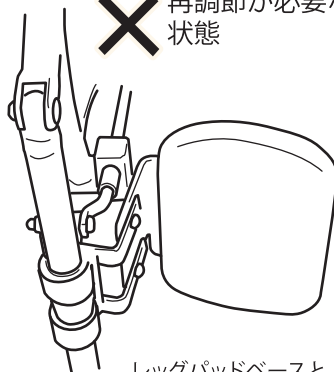
レッグパッドベースをレッグパイプに固定しているクランプの2か所のボルトを、4mmの六角レンチで緩めると、レッグベースの高さを上下にずらして調節することができます。調節後は緩めた2か所のボルトをしっかり締めてください。



レッグパッドベースの高さを調節したときは、レッグパッドベースとレッグパイプの部品が当たらないことを確認してください。



再調節が必要な状態



レッグパッドベースとレッグパイプの部品が当たってしまう状態



レッグパッドベースとレッグパイプの部品が当たらないようにレッグパッドベースの高さを再調節してください。

レッグパッドベース角度・奥行の調節のしかた

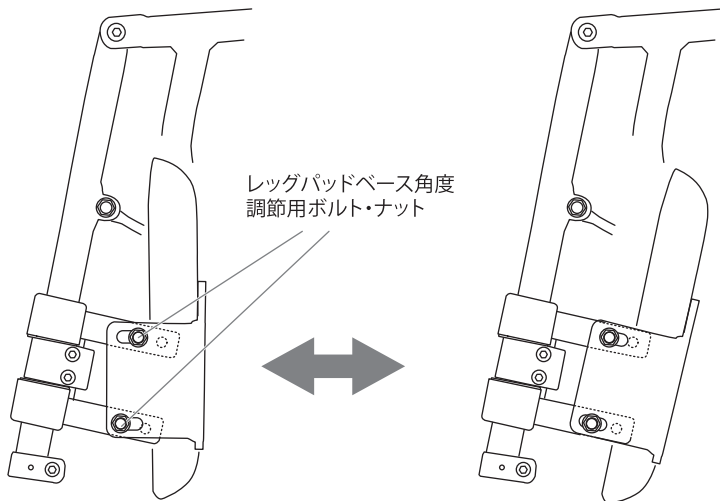


レッグパッドベース角度・奥行の調節につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご依頼ください。



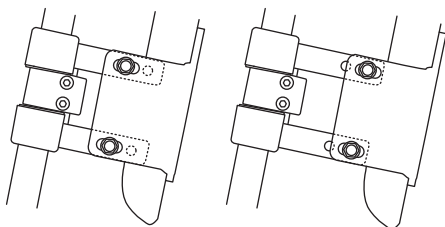
注意

レッグパッドベース角度・奥行の調節は、フット・レッグサポートを車いすから外した状態で行ってください。
また、作業中に各部で手指を挟まないようにご注意ください。



上図 2 か所のボルトを、4 mmの六角レンチと10mmのスパナで緩めると、レッグパッドベースの角度を調節することができます。調節後は緩めた 2 か所のボルトとナットをしっかりと締めてください。

レッグパッドベース角度調節用ボルト・ナットをはずして穴位置をかえると、レッグパッドベースの前後位置を大きく変更することができます。(下図参照) 調節用ボルトのワッシャー類は元通りにセットし、ボルトとナットはしっかりと締めてください。



ハンドリムと駆動輪リムの間隔のひろげかた (N A-X F 7 用オプション)

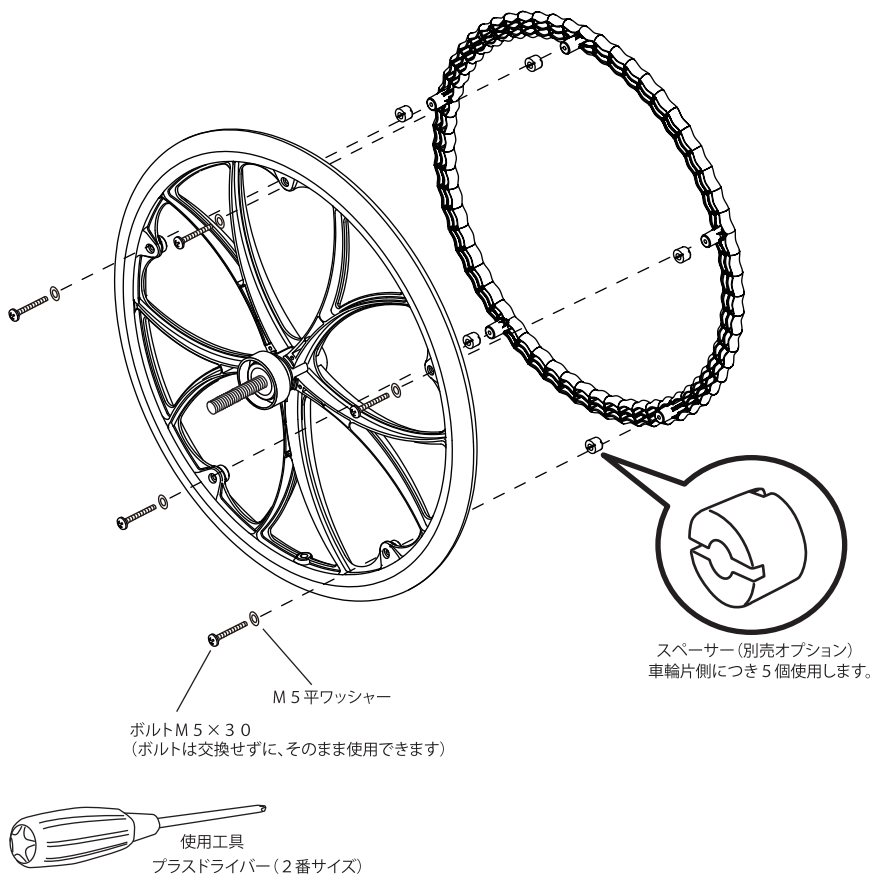


ハンドリムと駆動輪リムの間隔寸法の変更作業につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご依頼ください。



注意

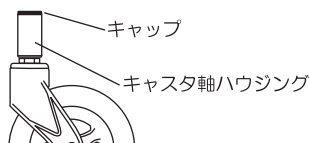
ハンドリムと駆動輪リム間隔寸法の変更作業は人が車いすに乗車していない状態で行ってください。また、作業中に各部で手指を挟まないようにご注意ください。



ハンドリムを駆動輪に固定しているボルトを緩めてはずし、ハンドリムとホイールの間にスペーサー (別売オプション部品) を挟んで固定し直すことで、ハンドリムと駆動輪リムの間隔を 12mm (標準仕様) から 22mm にひろげることができます。

使用前点検(必ず行ってください)

- 介助ブレーキがしっかり効くかどうかご確認ください。
 - 駐車ブレーキがしっかり効くかどうかご確認ください。
 - 介助ブレーキのワイヤーの張り具合が適当かどうか点検し、正常に動作するかどうかご確認ください。
 - ネジ・ボルトのゆるみがないか、フレームのガタつきがひどくないかご確認ください。
※特に、駐車ブレーキの取付け部や、車輪軸部は確実に確認してください。
 - シート・ベルトに亀裂や破れがないかご確認ください。
 - 駆動輪タイヤの溝がなくなりかけていないか、タイヤに亀裂がないか、ご確認ください。
 - 車輪のガタ・緩み・曲がり等がないかご確認ください。
 - 前輪キャスタ輪及びキャスタフォークに変形、ひび割れ等がないかご確認ください。
 - 前輪キャスタが緩んでいないか、抜け落ちていないかご確認ください。
 - バックサポートのインナーシートとアウターシート、座クッションが正しくしっかりと取付けられているかご確認ください。
 - 左右のサイドガードがしっかりと装着されているかご確認ください。
 - 各部パーツの変形、破損がないかご確認ください。
- キャスタ軸ハウジング上端のキャップが、キャスタ軸ハウジングにしっかりととはまっていることを確認してください。キャップが浮いている場合はキャスタフォーク固定ボルトが緩んでいる可能性がありますので、使用を中止し、販売店に点検を依頼してください。



警告

製品に異常がある場合は使用を中止し、すみやかに販売店に修理・部品交換・調整をご依頼ください。

メンテナンス・保管方法

- ボルトの緩み、フレームのガタなど目視や簡単に手で触って分かるようなチェックは、日常的に行ってください。
- 各部のメンテナンス(調節・補修・修理・部品交換等)はお買い上げの販売店にご依頼ください。
- シートが汚れた場合は中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取り、その後水で濡らした布で洗剤をきれいに拭き取ってください。汚れを取ったあとは、完全に乾燥させてからご使用ください。生乾きでの使用はカビや異臭の原因となります。
- 屋内の湿気が少ない場所に保管してください。雨に濡れる可能性のある場所や、湿気の高いところには保管しないでください。
- 直射日光の当たる場所や高温多湿な場所での長期保管は避けてください。

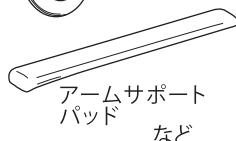


ウレタン素材には 寿命 があります。

- クッション性に優れているウレタン素材は、使用頻度にかかわらず経年変化を起こし、割れ、ヒビ、崩れを起こし、破損するおそれがあります。
- 特に通気の悪い場所での長期間の保管は避けてください。
- 割れやヒビ、崩れ等の症状が発生した場合は使用を中止し、販売店に部品交換を依頼してください。



キャスタ輪





注意・警告

主に製品を使用する前にご注意をいただくことや、メンテナンス等についての注意

- 各部のガタつきやネジのゆるみ、タイヤのすりへり、その他の不具合により、思わぬ事故につながる場合があります。定期的に取り扱い業者のチェックを受け、不具合がないか確かめてください。
- フレームの折れ、曲がり、シート・ベルト類の破損など壊れた状態での使用はしないでください。(使用中止し、すみやかに販売店へ修理、部品交換をご依頼ください。)
- 水にぬれた場合、そのままにしておくと製品に錆びやカビが出る場合があります。ぬれた場合は乾いた布ですみやかに拭きとってください。水中での使用はしないでください。
- 気温の差の激しい場所や異常に高温な場所(車中など)に製品を放置しないでください。フレームが痛むばかりでなく、熱くなったフレームで火傷をしたり、高温になったシートに座ることで体調に悪影響を与えることがあります。
- 改造や分解はしないでください。
- 当取扱説明書内に記載の寸法や重量の値には、製造の都合上、多少の誤差がありますのでご了承ください。

主に製品を使用中・走行中にご注意をいただくこと

- 使用者の体調が著しく低下しているときは、充分に注意して使用してください。
- 身体寸法や身体の状況が車いすに合わない場合は使用をしないでください。からだに合わない状況で製品を使用すると、製品の故障や事故、身体への悪影響につながるおそれがあります。
- シートの張り調整が不適切な状態での使用はしないでください。ベルトを極端にきつく張りすぎていても、車いすの折りたたみ動作や可動に悪影響を及ぼし、破損や事故につながるおそれがあります。
- 走行時には地面に凹凸や障害物がないか充分に注意してください。走行中、各部に凹凸や障害物が引っかかると、転倒や製品の破損のおそれがあります。
- 倒れかかるような座り方や、身を乗り出すような座り方はしないでください。バランスをくずして転倒することがあります。
- 乗車中に大きな前かがみの姿勢をとらないでください。(例: 足下や前方にあるものを触ろうとしたり、拾おうとして、前かがみの姿勢にならないようにご注意ください)。バランスをくずして車いす及び乗車者が前方に転倒するおそれがあります。
- 悪路や坂道では特に注意して操作してください。バランスをくずして転倒することがあります。
- エスカレーター及び動く歩道での使用はしないでください。転落、転倒による事故のおそれがあります。
- 公共交通機関で使用する際は、係員の指示に従い、安全に搭乗してください。
- 踏切りを横断の際は、車輪・キャスタ輪をレールに対して直角にして走行してください。斜めの角度で進入するとレールの溝にはまる危険があります。
- 手押しハンドルや各部フレームなどに手荷物等を掛けないでください。荷物等が各部に当たり誤動作をしたり、バランスをくずして転倒するおそれがあります。
- フットサポートの上に立たないでください。製品の破損だけでなく、転倒による事故のおそれがあります。
- 坂道での駐車はしないでください。やむを得ず駐車する場合は2輪以上に車止めをしてください。
- 乗車者・介助者とも、車いす使用時には靴をはいてください。はだしで車いすを使用しないでください。思わぬケガのおそれがあります。

その他にご注意をいただくこと

- フレームの座面下側や、車輪、各部の隙間等に手を入れないでください。各部が動いたり、でっぱりに触れたりすると、ケガのおそれがあります。
- 持ち運びの際は、メインフレーム以外を持たないでください。(アームサポートやフット・レッグサポート、手押しハンドル、シート等を持って運ぶと、製品の破損や事故につながるおそれがあります。)
- 本書記載以外の使用はしないでください。
- 踏台や脚立・歩行器のかわりに使用しないでください。
- 子供に操作をさせないでください。
- 二人乗りなど多人数での使用はしないでください。
- 体重が製品の耐荷重を超える方の使用はしないでください。
- 周辺に小さなお子様がいらっしゃるときは、指や手足を挟むなどして、ケガをするおそれがありますので十分にご注意ください。
- 製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取扱いをしたり、落したり、たたいたりなどの強い力や衝撃を与えないでください。製品が破損することがあります。
- 製品の改良・改善により、詳細において本書の内容と異なる場合があります。不明な事柄につきましては、販売店までお問合せください。

車いすのトラブルシューティング

故障かな?と思ったら、まずは販売店へお問い合わせください。

症 状	原 因	解決方法
斜行する。 まっすぐ走らない。	駐車ブレーキが解除されていない。	駐車ブレーキを解除してください。
	キャスタ取付けが緩んでいる。 キャスタ輪がスムーズに回転しない。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
駐車ブレーキが 効かない。	ブレーキのタイヤ押さえ金具が汚れている。	タイヤ押さえ金具の汚れを拭きとってください。
	主輪・駆動輪のタイヤが磨耗している。 ブレーキががたつく。(本体が動く) タイヤ押さえ金具とタイヤが当たっていない。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
介助ブレーキが 効かない。	主輪・駆動輪のタイヤが磨耗している。 ブレーキのワイヤーの伸び、切れ。 車軸部ドラム押さえバンドの磨耗。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
車いすを折りたた めない。	フットサポートが干渉している。 積載物などがはさまっている。	正規の状態にして再度お試しください。
	車いすの折りたたみ機構がかたい。 介助ブレーキのワイヤー等のひっかかり。	お買い上げの販売店へご相談ください。
車いすをひろげら れない。	駆動輪が縁石などに当たっている。	広い平らな場所で再度お試しください。
	バックサポートのインナーベルトを張りすぎ ている。	張り調整をしておいて、再度お試しください。
	車いすの折りたたみ機構がかたい。 シートの挟みこみ。 介助ブレーキのワイヤー等のひっかかり。	お買い上げの販売店へご相談ください。
異臭がする。	シートやアームサポートの汚れ。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
異音がする。 車いすがぐらつく。	シートの伸び等による干渉。 サビ・磨耗・汚れ等による油切れ 主輪・駆動輪取付けの緩み	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。

販売店向け 資料

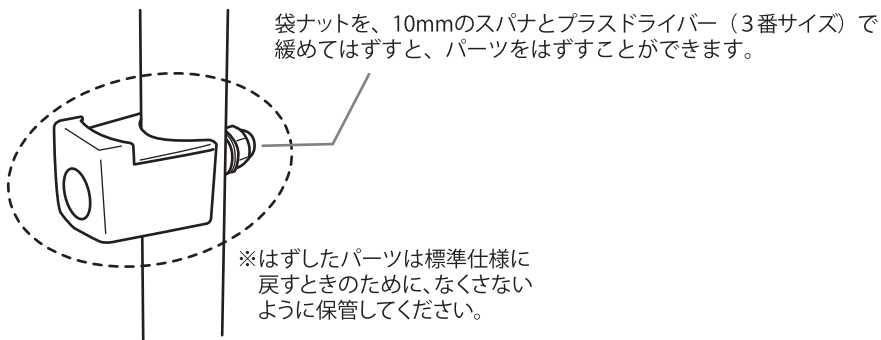
オプション 挙上式フット・レッグ サポートへの変更作業手順説明



挙上式フット・レッグサポートへの変更作業につきましては、
専門知識と技術を持った販売店にご依頼ください。

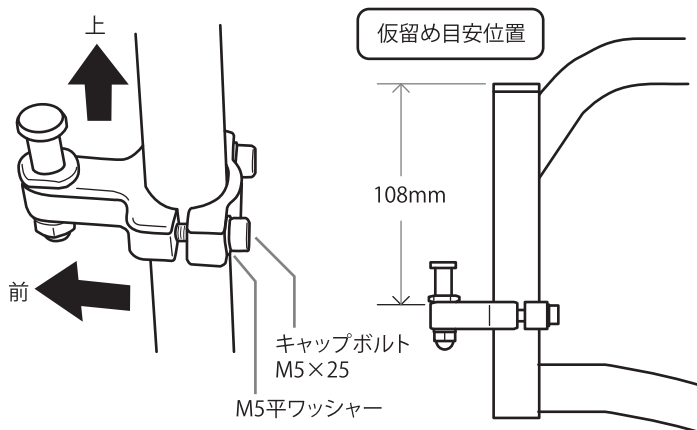
1

標準仕様のフレームから、
標準仕様のフット・レッグサポート
ロック受けパーツ(点線内部)を
はずします。



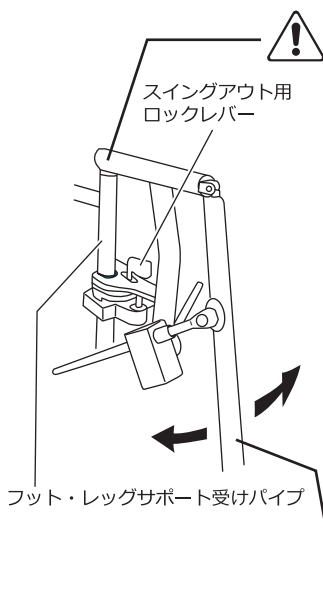
2

標準仕様のロック受けパーツを外したパイプに、挙上式仕様の
フット・レッグサポートロック受けパーツを仮留めします。
(4mm六角レンチを使用)



3

P 20に記載の動作が正しくできるように、
ロック受けパーツの高さや向きを微調整します。



フット・レッグサポートが下に確実に差し込まれていて、
受けパイプから浮き上がっていない状態にしてください。

開きかた・はずしかた

※乗車者の足をフットサポートから外した状態で操作を行ってください。

- ①スイングアウト用ロックレバーを外側へ押しながら、フット・レッグサポートを外側に開きます。
- ②フット・レッグサポートを外側へ45°程度回転させると、フット・レッグサポートを上方に引き抜いて外すことができます。

取り付けかた

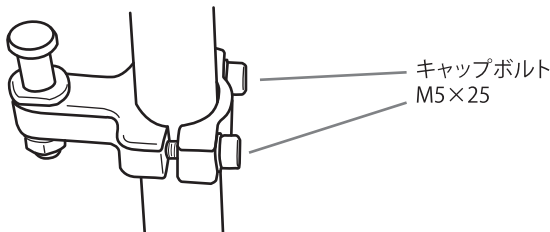
- ①フット・レッグサポートを外側に45°程度開いた状態の角度で、フット・レッグサポートのインナーパイプをフット・レッグサポート受けパイプの穴に、上からまっすぐ差し込みます。
- ②フット・レッグサポートを「カチッ」と音がするまで、内側に向けて回転させてください。



フット・レッグサポートがロックされたときに、フット・レッグサポートの
パイプが内側や外側を向かず、まっすぐ前方を向くようにしてください。

4

上記[3]の微調整が完了したら、ロックパーツの
キャップボルトを4mmの六角レンチでしっかりと
締めて固定してください。



目次

P 1	...	各部の名称
P 2	...	はじめにご確認ください N A H-X F 5 の仕様・サイズ N A-X F 7 の仕様・サイズ
P 3	...	ヘッドサポートフレームのはずしかた・取付けかた・高さ調整のしかた
P 4	...	車いすのひろげかた 車いすの折りたたみかた
P 5	...	バックサポートの折りたたみかた・固定のしかた 駐車ブレーキのかけかた
P 6	...	駆動輪の操作のしかた (N A-X F 7 のみ) ティルト・介助ブレーキの操作方法
P 7	...	クランプレバーによるヘッドサポート左右位置と角度の調整のしかた 角度調整ボタンによるヘッドサポートの角度の調整のしかた
P 8	...	フットサポートの高さの調節のしかた
P 9	...	フットサポートの前後位置の調節のしかた
P 10	...	フット・レッグサポートの開閉のしかた・着脱のしかた
P 11	...	アームサポートの跳ね上げのしかた・戻しかた
P 12	...	アームサポート高の調整のしかた
P 13	...	折りたたみ対応専用座クッションの使いかた サイドガードについて (必ずご確認ください)
P 14	...	バックサポートシートの取付けかた
P 15	...	バックサポートインナーベルトの基本設定
P 18	...	バックサポート高の調整のしかた 座奥ベルトの装着について
P 19	...	座面高の調節について 駐車ブレーキの調節方法
P 20	...	挙上式フット・レッグサポート (オプション) の開きかた・着脱のしかた 挙上式フット・レッグサポート (オプション) の挙上のしかた・下げかた
P 21	...	挙上式フット・レッグサポート (オプション) の各部の調節のしかた
P 24	...	ハンドリムと駆動輪リムの間隔の広げかた (N A-X F 7 用オプション)
P 25	...	使用前点検 (必ず行ってください) メンテナンス・保管方法 ウレタン素材には寿命があります
P 26	...	注意・警告
P 27	...	車いすのトラブルシューティング
P 28	...	販売店向け資料 オプション 挙上式フット・レッグサポートへの 変更作業手順説明
P 30	...	目次
P 31	...	保証規定・品質保証書

保証規定

I. 保証の範囲

1. 保証期間中に品質の不完全に基づく故障を生じた場合には下記の保証書により無料で修理いたします。
2. 保証期間はご購入後1年間です。
3. 但し、次の場合は保証期間中でも有料になります。
 - (a) 取扱い過誤による故障。
 - (b) 製品に改造を加えた場合の故障。※純正品以外の部品を使用した場合も含まれます。
 - (c) 天災、地変等による故障ならびに損傷。
 - (d) 消耗部品、タイヤなど。
 - (e) 保証書にお買い上げ店名の記載、捺印のない場合。
 - (f) 保証書でご提示がない場合。
4. 以上の保証は本製品を日本国内に設置した場合に限ります。
5. この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

II. サービスのご用命

保証期間中、万一故障が生じた場合はご購入の販売店へ保証書を添えてお申し出ください。

III. ご注意

保証書は再発行しませんので大切に保管してください。

品質保証書

本商品については上記記載の「保証規定」により正常な使用状態において故障が生じた場合に限りご購入日より「1年間」無償にて修理いたします。

機 種					
お客さま	ご				
	(フリガナ)				
ご購入	日	年	月	日	有効年月日
販売店					
総					
製造元	日進医療器株式会社 〒481-8681 愛知県北名古屋市沖村権現35番地の2 TEL <0568>21-0635(代) FAX <0568>23-2787				

日進医療器株式会社

本 社 〒481-8681 愛知県北名古屋市中村権現 3 5 番地の 2
TEL <0568>21-0635(代) FAX <0568>23-2787
東京営業所 〒112-0002 東京都文京区小石川 1 - 2 1 - 1 4
TEL <03>3814-0923(代) FAX <03>3814-4644
大阪営業所 〒533-0013 大阪府大阪市東淀川区豊里 6 - 1 6 - 1 0
TEL <06>6323-8265(代) FAX <06>6326-2554
九州営業所 〒812-0876 福岡県福岡市博多区昭南町 2 丁目 3 - 8
TEL <092>513-5036(代) FAX <092>513-5038

製品の廃棄方法

ご不用となった製品を処分される場合の廃棄方法につきましては、
お住まいの自治体のルールに従ってください。